

取組分野		令和 7 年度	総括
取組目標		自己評価	
重点取組項目	「総合的な探究の時間」の取組の推進	・「総合的な探究(学習)の時間(サイエンスリテラシー及びサイエンススタディーズ)では、生徒が主体的に考え、行動し、課題解決ができるようになった。」という生徒アンケートにおいて、肯定的な回答が90%以上になることを目指す。 ・中高6年間を通した総合的な探究(学習)の時間(サイエンスリテラシー及びサイエンススタディーズ)のプログラムの充実を図る。	A
	魅力ある高校教育の推進	・SSHの指定と中高一貫教育を推進するためのカリキュラムマネジメントを目指した教育課程が編成されている。」という教職員アンケートにおいて、肯定的な回答が90%以上になることを目指す。 ・個々の希望に応じたキャリア形成を支援する。	B
	グローバル教育・サイエンス教育の推進	・「サイエンスリテラシー、サイエンススタディーズをはじめとする取組によるサイエンス教育、オンラインを含む海外研修の実施によるグローバルリーダー教育が充実している。」という教職員アンケートにおいて、肯定的な回答が90%以上になることを目指す。 ・サイエンス教育推進の拠点校として、他の市立高校にサイエンス教育の普及を図る。	A
人材育成の取組目標		1. 本校の教育理念及びSSH、横浜SGHへの理解を深め、中高一貫教育校としてその推進に努める雰囲気をつくる。 2. 主体的・対話的で深い学びの授業研究を日常的に行い、授業力と生徒一人ひとりを支援する力を向上させる。 3. 中高全教職員自身が「サイエンスの力」と「言葉の力」を活用し、「伝え合う」ことでチーム力を向上させる。	B
中期学校経営方針における13の取組分野	教育目標等の設定・実施	・中期学校経営方針への理解を深め、目標の達成に向け努力する。 ・管理職が経営方針を明確に伝える他、討議や意見交換の場を確保する。	B
	組織運営(働き方改革)教職員研修	・職員間のコミュニケーションを密にし、継続と発展を目指したチーム力の向上に努めるとともに、業務の均分化、効率化を図る。 ・生徒の課題理解研修、教育公務員としての不祥事防止研修を実施する。	B
	教育課程	・SSHの指定と中高一貫教育を推進するために、カリキュラムマネジメントを目指した教育課程の検討を進める。 ・教育課程委員会や研修の機会を通して、教職員の共通理解を進める。	A
	教科指導	・主体的・対話的で深い学びの授業研究により授業力向上を図る。 ・生徒の主体的で深い学びを目指す指導を心がけるとともに多面的な評価の工夫に努める。	B
	特別活動部活動	・生徒の自主的な活動を通じて、互いに尊敬する態度、協調性を養う。 ・教職員同士の連携を密にすることにより、生徒活動の向上に努める。 ・中高の連携をはかり、相互に成長できる活動を促す。	B
	生徒指導教育相談(特別支援)	・生徒が本校で学ぶ誇りと自信を持ち、いかに行動すべきを考えさせる。 ・教育相談や研修など、必要に応じて外部機関と連携し、生徒理解を深めるとともに、教職員が共通の認識をもって適切な共通の指導に当たるよう努める。	B
	キャリア教育進路指導	・定期的な職員研修会を開催し、キャリア教育を意識した指導力を高める。 ・生徒及び保護者向けに提供する資料を充実させる。	B
	保健指導環境美化	・生徒の心身の健康課題について、迅速かつ丁寧な対応を続ける。 ・「ゴミの分別」「省エネ」の取組を進め、全校で意識を高めていく。	B
	学校経理施設・設備情報の管理	・効率的で円滑な事務処理及び体制強化を進める。 ・コンピュータやネットワークなど情報環境の見直しと整備を進め、学校情報の管理を推進する。	B
	保護者・地域等との連携協力	・YSF-PTAとの連携により、開かれた学校づくりをさらに進める。 ・地域自治会や小中学校等への定期的な広報に努める。	A
	危機管理	・防災訓練を通して「避難場所・避難経路」の生徒への周知徹底を進める。 ・保護者の願いを理解し、安全で安心な学校生活が送れるように冷静で確かな危機管理に対する意識を生徒、教職員ともに向上させる。	B
	学校に関する情報公開	・総務部の企画・広報担当による、スピーディーな情報発信をさらに進め、ホームページの適切な運営を行う。 ・生徒及び保護者に向けた発信、活用のための指導、連絡を行う。	B
	いじめへの対応	・学校全体でいじめの未然防止と早期発見に取り組むとともに、いじめが疑われる場合には、適正かつ迅速にこれに対処し全職員で組織的に取り組む。	A
学校関係者評価書提言		SSH・SGHの取組や中高一貫教育による探究的な学びの成果は、生徒の充実した学校生活や高い進路実績として現れており、引き続きその強みを発展させることが求められる。一方で、生徒の満足度に比べ保護者の評価が低い傾向が見られることから、学校の教育活動や方針をより丁寧かつ多様な方法で発信する必要がある。また、保護者同士の連携促進や情報共有の工夫、HP等を活用した情報提供の充実も重要である。加えて、教職員の負担軽減や組織的な運営体制の改善、施設設備の充実を進め、持続可能で質の高い教育環境の整備を図ることが期待される。さらに、本校が拠点となり、サイエンス教育の普及や女子生徒の理系分野進出の推進にも積極的に取り組むことが望まれる。	
学校関係者評価書提言に対する考え		附属中間校から9年の期間が経過し、中高の「融合」に対する意識は生徒・教職員ともに着実に高まっている。また、探究的な学びやサイエンス教育においては、中高一貫教育の強みを生かした成果も見られる。一方で、年次による取組の差や教職員間の共通理解の浸透、保護者との評価の乖離などの課題も明らかとなっている。今後は、これまでの教育活動を体系的に整理し、中高6年間を見通したカリキュラムマネジメントの深化を図るとともに、評価の在り方を見直しや情報発信の充実に取り組む。引き続き、本校の教育理念に基づき、サイエンスの力と言葉の力を兼ね備えた人材の育成を推進していきたい。	
中期取組目標振り返り		SSH「スーパーサイエンスハイスクール」及び横浜SGHとしての実践研究を基盤に、中高一貫教育校として「探究力」「創造力」「自立力」「コミュニケーション能力」の育成を目標に掲げ、取組を着実に進めてきた成果が見られる。特に探究活動やサイエンス教育においては高い評価を維持している。一方で、教職員間の共通理解や一部年次における取組の充実には課題も見られた。今後は将来構想委員会や教科会等を活用したカリキュラム・マネジメントを一層推進し、中高の連携を生かした教育活動のさらなる発展を目指していきたい。	